



川に中州ができるのはどうして

川の水のはたらき

川の水には、けずる、運ぶ、積もらせるという3つのはたらきがあります。

川の水が流れるときに、川岸や川底の岩石を、けずるはたらきがあります。これを、しん食作用といいます。

川の流れば、小石や土砂などを運びます。このはたらきを、運ぱん作用といいます。小石は、川底を転がったり、はずんだりしながら、運ばれていきます。運ぶ力は、水の量が多いときや、流れが急で速いほど、強くなります。

川の流れるやかになると、運ぶ力が弱くなって、小石や土砂などが重いものから順に、川底に積もっていきます。この積もらせるはたらきを、たい積作用といいます。

川の水のたい積作用のため

川の上流では、しん食作用や運ぱん作用のはたらきが、大きいのですが、川が中流になると、運んできた小石や土砂を積もらせる、たい積作用も大きくなります。

川が中流になると、川はばは上流よりも広くなり、水の量が多くなります。川底のかたむきもゆるやかになり、川の流れる上流に比べて、おそくなります。

すると、川原には角がとれた小石や砂などが、広い面積にわたって積もったり、川の真ん中に、中州とよばれるものが、できることがあります。中州ができるのは、川の水のたい積作用のためです。（監修・国司 真）

